

チャージ型決済の実現方法とそのセキュリティ Digital Payment Schemes and their Security

田村裕子*
Yuko TAMURA

キーワード 暗号資産, コード決済, セキュリティ対策, チャージ型決済, 電子マネー

あらまし

近年, デジタル決済サービスの利用が拡大している。なかでも, 電子マネーやコード決済のように, 決済事業者が金銭的価値を発行し, それを利用して決済を行うサービス (チャージ型決済) が普及してきている。また, 暗号資産もユーザ間で金銭的価値の授受を可能とするスキームの1つである。チャージ型決済には, 金銭的価値の保管形態や保管場所の違いによって, いくつかの実現方法が存在する。決済サービスの提供に当たっては, その実現方法に由来する情報セキュリティ面のリスクに応じて対策を講じる必要があることから, 本稿では, チャージ型決済における金銭的価値の保管形態や保管場所によって, セキュリティ対策がどのように異なるのか整理を試みる。具体的には, チャージ型決済の各実現方法について, 金銭目的の攻撃として想定される不正行為の種類を列挙し, それに対抗するためのセキュリティ対策の差異について考察を行う。

* 日本銀行金融研究所情報技術研究センター, 東京都中央区日本橋本石町2-1-1, Center for Information Technology Studies (CITECS), Institute for Monetary and Economic Studies, Bank of Japan, 2-1-1 Nihobashi-Hongokuchō, Chūō-ku, Tokyo.
yuuko.tamura@boj.or.jp